

# 日本屈指の海の難所 御前崎沖

## 強い西風が生み出す特有の海流と暗礁

御前崎海域は「一に玄海 二に遠州 三に日向の赤江灘(現在の日向灘)」と言われ、日本三大海の内のひとつに数えられる難所として昔から航海者に恐れられてきました。

御前崎沖は「遠州の空っ風」と呼ばれる強い西風と駿河湾の速い潮流がぶつかってできる独特の波や無数に点在する暗礁のため、昔から遭難する船が絶えませんでした。

このため、徳川幕府は寛永12年(1635年)、大阪から江戸に物資を運ぶ千石船に御前崎の位置を知らせるための灯明堂を日本で最初に作って、海の安全を見守ってきました。

## 江戸時代の航路図

伊勢の鳥羽より伊豆下田までの75里(約139Km)に横たわる遠州灘は一度荒れると白い牙をむき出し、その中間にある御前崎沿岸には無数の暗礁があり遭難船が絶えなかった。



## 御前崎沿岸での座礁事故の記録

### 明治4年(1871年)2月 軍艦難破の図



鳥取藩の軍艦「乾坤丸」が、御親兵200余人を乗せて東京に向かう途中、濃霧のため尾高暗礁に座礁した。このこともあって、洋式灯台の建設が急がれることとなった。

### 昭和17年(1942年)7月 榛名丸(10,421t)

日本郵船が所有する欧州定期航路の貨客船の「榛名丸」が濃霧のため御前岩暗礁に乗り上げて座礁した。

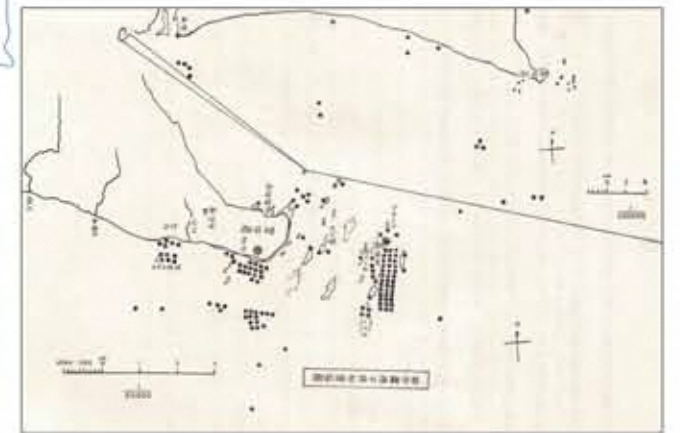


### 昭和34年(1959年)8月 尾高海岸 ダブル遭難

タンカー「長門丸」(左)と貨物船「東亜丸」(右)が濃霧と高波のため尾高海岸で座礁した。



自衛隊による東亜丸救助の様子



## 海難分布図

御前崎近海では明治18年(1885年)から昭和35年(1960年)までの75年間に約160隻の船が遭難し、その多くは御前崎灯台の東方海上に分布する御前岩暗礁、灯台沖、その西の尾高暗礁である。(昭和35年御前崎町の資料より)



### 平成2年(1990年)4月 マリアナ号(5,000t)

パナマ船籍の貨物船「マリアナ号」が、強風と高波のため白羽海岸に吹き寄せられた。満潮時に再三再四、タグボート曳航を試み難破に成功した。



## 見尾火灯明堂(みおびとうみょうどう)

見尾火灯明堂は御前崎灯台が建設される以前の、江戸時代に使用された木造灯台です。寛永12年(1635年)から約240年の間、御前崎沖を行き来する船の道しるべとして、行灯を灯していました。



## 難破船とサツマイモの伝来

### 薩摩御用船を救助した大澤権右衛門

江戸時代中期・明和3年(1766年)御前崎沖で薩摩藩の御用船「豊徳丸」が座礁し、その船員24名を二ツ家の組頭・大澤権右衛門(おおさわごんえもん、1694~1778年)親子らが助けました。

権右衛門は薩摩藩からの謝礼金20両を断り、3個のサツマイモとその栽培方法を伝授されました。

静岡県の遠州地方(主に遠州灘に面した県西部)にサツマイモ栽培が普及したきっかけは、この250年以上前の出来事からだとされています。御前崎地区西側の海福寺には、市指定文化財のいもじいさん(大澤権右衛門翁)の墓碑があります。

サツマイモの伝来は、御前崎の海が難所であったことも大きな要因となっているのです。



御前崎灯台を守る会 監修 2020年作成